



学校法人四国大学

大学改革ビジョン 2017

| 2017 ▶ 2021 年度 |



学生にとって
魅力ある大学とは
なにか



私たちは、「**学生にとって魅力ある大学**」の実現のために、
学生の日線に合った**大学改革**に取り組みます。



—— 学生にとって魅力ある大学とはなにか ——

学校法人四国大学は、2011年より5か年にわたって「大学改革ビジョン2011」に取り組み、大学全体の学生数の増加や教育改革、就職率の向上、認定こども園への移行と園児確保などの成果を収めて計画期間を終了しました。

前計画の成果と経験を基盤にし、さらに深化・充実させるため、次期改革ビジョンである「大学改革ビジョン2017」を策定しました。2017年から5か年にわたる各取組を通じて「四国大学ブランド」を確立し、地域においてなくてはならない学園となることを目指しています。

大学改革の目標

- ① 大学経営を安定させ持続的発展を図るための学生確保
- ② 新しい時代に合った教育内容・方法の改善と研究活動の活性化
- ③ 多様な学生ニーズに応える学習環境の提供
- ④ 学生の適性・能力に応じた就職支援の充実
- ⑤ 地域社会との共生及び国際化の推進

1 大学の持続的発展を目指して

「地域になくてはならない大学」を目指し、本学の魅力や「四国大学らしさ」を広く社会に伝えるため、広報機能の改革を行い、「四国大学ブランド」の確立を図ります。

また、学生募集体制を見直し、新しい入試制度を構築し、全ての教職員が一丸となって学生募集を行う体制作りを進めます。

2 教育・研究の強化と質保証

社会や地域のニーズを踏まえ、本学での学びが学生にとってより魅力あるものとなるよう、時代に合った学科・コースの新設・再編をはじめ、教育内容・方法の改善・充実、学科等の特色を明確化したカリキュラムの開発・実践及び研究活動の強化・推進などに取り組みます。

3 学生生活と就職活動の支援・充実

学生満足度の向上のために、一人ひとりに向き合った総合的な支援を行い、学生生活の充実を図ります。また、大学での学びにより人生観や職業観を醸成し、卒業後の進路に繋がるよう、キャリア教育と就職活動支援の充実・強化を図ります。

4 地域貢献活動とグローバル化の推進

これまで「地域とともに歩む大学」として整備してきた基盤の上に、地域社会及び産業界との一層の連携強化を図りつつ、新たな生涯学習プログラムの開発や高大連携事業の多様化促進、学内資源の有効活用などの取組を通じて、地域貢献活動に係る独自のグランドデザインを策定します。

また、附属認定こども園では、教育・保育課題に大学と連携して取り組み、子育て支援における地域社会のニーズに応えます。

このほか、新しい国際戦略プログラムを構築し、留学生への積極的な支援及び支援体制の強化をはじめ、海外との研究交流・人的交流などグローバル化を推進します。

5 大学運営組織の機能強化と経営の安定化

社会のニーズの変化や学生の多様化により、大学に求められる機能は拡大しています。また、経営環境も今後一層厳しく変化していくことが予測されます。このような状況において、本学では教職協働を推進するとともに、大学運営組織の機能強化と経営の安定化に取り組みます。



四国大学が進める教育改革

「教育改革プログラム2020」

多様・柔軟なカリキュラムで時代が求める質の高い教育を実現

社会・経済・科学技術などの在り方が大きく変化する中で、大学教育に期待されるのは、これからの社会を担い、新しい時代を切り拓いて社会をリードする人材を育てることです。四国大学では2014年度から実施してきたカリキュラムを進化させ、新しい時代に合った「教育改革プログラム2020」を開始します。

新しい教育プログラムの4つの特色

| | | | |
|--|---|---|--|
| <p>1</p> <p>ディプロマポリシーに沿った一貫教育</p> <p>大学及び各学科・専攻ごとのディプロマポリシー(卒業認定・学位授与方針)に沿って、入学時から卒業までの教育活動が一貫したものとなるようカリキュラムを編成しています。</p> | <p>2</p> <p>新しい時代に合ったカリキュラム</p> <p>全学共通教育及び各学科・専攻で新しい時代に合ったカリキュラムを開発するとともにカリキュラムの特色が明確になるよう工夫しています。</p> | <p>3</p> <p>アクティブラーニングの推進</p> <p>教育効果を高めるため、アクティブラーニングを採り入れるなど、学生参加型の教育を充実していきます。</p> | <p>4</p> <p>教育の質の保証のためのシステム</p> <p>新しいカリキュラムで、学生は何を学び、身に付けることができるのか、学んでいる学生は成長しているのか、学修の成果は出ているのかなどを評価するシステムを採り入れます。</p> |
|--|---|---|--|

四国大学スタンダード

四国大学では、教育と学生生活を通して学生に確実に身に付けてほしい力として、「社会人基礎力」「自己教育力」「人間・社会関係力」の3つを掲げ、これらを四国大学スタンダードとして教育内容を構成しています。卒業時には3つの力に加え、日本語による自己表現力、情報処理技術力も身に付けて社会へ出て行くことになります。

社会人基礎力

- ①社会人マナー
- ②基礎学習力
- ③情報活用力

自己教育力

- ①自己理解・省察力
- ②目標課題設定力
- ③向上・探究する力

人間・社会関係力

- ①コミュニケーション力
- ②対人親和力
- ③社会貢献力

大学改革を推進する5分野に関する主な取組

1 大学の持続的発展を目指して

| | |
|------------------------|--|
| 大学広報戦略室の設置 | 大学広報機能の充実強化と戦略的な広報施策の展開を図るため、平成29年度組織再編により、大学広報戦略室を設置しました。 |
| 四国大学ブランドの構築 | 「四国大学の魅力」や「四国大学らしさ」を広く社会に伝えるため、「四国大学ブランド戦略」を策定し、学内外に対して本学のブランド力を向上させる様々な取組を実施しています。 |
| 新ブランドスローガンの策定 | 大学を取り巻く環境の変化をとらえ、これからの大学が目指すべき方向性を示すものとして、新ブランドスローガン「人が集まる「人」をつくる、大学。」を策定しました。 |
| 大学公式ホームページのリニューアルと内容充実 | 大学公式ホームページを平成29年度にリニューアル公開しました。また、強化指定スポーツ部6競技専用のスポーツポータルサイトの新設や「四国大学WEBオープンキャンパス2020」の開設、ベトナム語ページの設置など、その充実を図っています。 |
| 大学PRムービーの制作 | 経営情報学部メディア情報学科の教員及び学生の協力のもと、四国大学全体を紹介する「概要編」と「学科編」、本学が強化指定する6競技部(陸上競技・弓道・女子サッカー・女子バレーボール・女子ラグビー・ソフトテニス)やスポーツ支援の取組を紹介する「スポーツ編」の四国大学PRムービーを制作しました。 |
| 指定競技スポーツの振興 | 本学が指定するスポーツ部6競技の強化のため、優秀な人材確保に努めるとともに、選手の競技力向上に資する活動支援及び環境整備に取り組んでいます。 |
| 四国スポーツフェスティバルの開催 | スポーツ分野独自の参加型イベント「四国スポーツフェスティバル」を開催し、小学生から高校生までの参加者が希望する競技の体験や学内スポーツ施設の見学を行いました。 |
| 四国アーティストフェスティバルの開催 | 芸術分野独自の高校生参加型イベント「四国アーティストフェスティバル」を開催し、高校1・2年生に対し本学の芸術分野の活動や支援体制について紹介しました。 |
| 日ノ上陸上競技練習場の整備 | 日ノ上運動場に投てき練習施設と全天候型90mのタータントラック4レーンを備えた「日ノ上陸上競技練習場」を整備しました。さらに平成30年度には走幅跳・棒高跳用設備の整備及び器具用倉庫の新築など、施設の充実を図りました。 |
| スポーツ健康館の新築 | 全学的なスポーツ活動及び健康分野の拠点として、各種トレーニングマシンを設置したトレーニングセンターや大小2つのアリーナ、栄養相談等に対応するカウンセリング室を備えた「スポーツ健康館」を新築しました。 |
| オープンキャンパスの開催 | 「見つけよう、きみの未来」をキャッチフレーズにオープンキャンパスを年間6回開催し、オープニングオリエンテーションをはじめ学科・専攻別説明会では、それぞれに工夫を凝らした説明・模擬授業等を実施しています。 |
| 特別入試の拡大 | 平成30年度入試では、スポーツ分野特別入試の対象競技に男子ソフトテニスを追加するとともに、社会人、編入生を対象とした芸術分野特別入試を導入しました。平成31年度入試では、グローバル分野の導入と芸術分野に吹奏楽を追加しました。令和2年度入試では、芸術分野を芸術・メディア分野に拡大したほか、吹奏楽を吹奏楽分野として独立させました。 |
| 新しい時代に対応した入試改革と入学前教育 | 国の入試改革方針に基づき、本学では高校生の学力の3要素を多面的・総合的に評価する入試制度を設け、令和3年度入試から実施するほか、新入試の合格者に対応した入学前教育の実施方法と内容を決定しました。 |

2 教育・研究の強化と質保証

| | |
|-----------------------------------|---|
| 新しい時代に対応した学科・コースの新設・再編 | 現行の学科等及びコースの在り方について総合的に検討し、改善案を取りまとめ、実行可能なものから実施しています。令和元年度から生活科学部生活科学科に「公認心理師コース」を開設するとともに、学科名称を「人間生活科学科」に変更し、入学定員を50名に増員しました。 |
| 3ポリシーの再構築 | 各研究科、学部、学科・専攻の3ポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)について文部科学省のガイドラインに沿った見直しを行い、一貫性を持たせて再構築しました。 |
| アセスメントポリシーの策定 | 本学の3ポリシーに基づき、機関レベル(大学全体)、教育課程レベル(学部・学科・センター)、科目レベル(授業)の3段階の基準を設け、アセスメントポリシーとして、学生の入学前から卒業後までの学修成果等の具体的な検証・評価方法を策定しました。 |
| 教育改革プログラム2020の開始(カリキュラムの検証、評価、改善) | 「教育改革プログラム2014」が平成29年度末で学年進行を終了することから、現行の全学共通科目及び各学科専門科目の検証・見直しを行い、新カリキュラム及び新しい教育プログラムを決定し、「教育改革プログラム2020」としてスタートしました。 |
| 新しい時代に合ったカリキュラム開発・実践 | 令和元年度までに生活科学部における公認心理師の養成、スポーツ栄養、食の安全、消費者教育及び小学校英語の各プログラムが開始されたほか、令和2年度から文学部における日本語教員養成課程の開設、経営情報学部でのAI応用人材育成プログラム、児童学科での認定絵本士養成講座など、新しい教育プログラムを開始しました。 |
| キャリア養成プログラム(CCP)の導入 | 経営情報学部経営情報学科において、先行して短期大学部ビジネス・コミュニケーション科で開始した「地域創生人材育成(公務員)プログラム」を導入し、令和元年度から学生受入を開始しました。 |
| 編入学支援プログラムの開発 | 短期大学部では、「四国大学学内編入学支援プログラム」を開始し、編入学を希望する学生に対して、個別プログラムの実施や経済的支援など、様々なサポートを行っています。 |
| 光・アート人材の育成 | 平成30年度に「徳島県地方大学・地域産業創生事業」に採択された「四国大学徳島光・アート教育人材育成事業」を推進し、推進本部を中心に総合的な光人材の育成を計画的に進めています。 |
| 日本語教員養成課程の開設 | 令和2年度から文学部の3学科において、「日本語教員養成課程」を開設し、各学科の主専攻の知識とともに、日本語教育に関する専門知識と技術を併せ持ち、多様なニーズに対応できる日本語教員を養成します。 |
| AI応用人材育成プログラムの開発 | 経営情報学部において、社会からの関心が高いAI(人工知能)に関する基礎知識及び急速に実用化が進むAIの応用分野での活用仕組と技術を修得するプログラムを開発し、令和2年度から実施しています。 |
| 認定絵本士養成講座の開設 | 生活科学部児童学科において、令和2年度から「認定絵本士養成講座」を開設しました。絵本に関する知識・技能・感性を修得して、乳幼児の豊かな心の育成に貢献できる実践力を養います。 |
| カリキュラムマップの作成 | 全学科・専攻・コース毎にカリキュラムマップを作成し、教育内容の可視化を図りました。 |
| ナンバリングの導入及びルーブリックの活用 | 教育内容(カリキュラム)が学生にとって見やすく、分かりやすくなるよう、教育課程の体系性を明示する「ナンバリング」を導入しました。また、学ぶ内容と到達度を明示した「ルーブリック」を全学に拡充し、平成30年度から本格実施しています。 |

| | |
|------------------------------|---|
| アクティブラーニングの拡大 | アクティブラーニング施設やラーニングcommons等を積極的に活用し、全学教育、各学科等の専門教育においてアクティブラーニングの実施を拡大しました。 |
| 教育評価システムの見直し (絶対的相対評価の導入) | 本学のGPA制度の点検・見直し及び教育活動の評価方法について検討を行い、成績評価の公平性を期すため、「絶対的相対評価システム」を導入し、令和元年度前期の成績評価から活用しています。 |
| FD活動の充実による教育改善 | 平成29年度に策定したFD実施計画に基づく研修会及びセミナーを実施するとともに、令和元年度は授業評価に評価項目等を見直した新システムを導入するなど、教育活動の改善・充実を図っています。また、新たなFD活動の実施に向け、分野ごとのプロジェクトチームを組織し、内容検討を行いました。 |
| 大学院教育の充実 | 教育改革推進委員会大学院部会において、4研究科毎に大学院教育の充実に向けて、カリキュラムを点検・見直し、研究指導体制の整備等について検討のうえ実施しました。看護学研究科にあっては、平成30年度から新たに助産学分野を開設し、大学院での助産師養成を行っています。 |
| 特色ある研究活動推進 | 学内の特色ある個人的・組織的研究に対して学術研究助成を行い、積極的な推進を図っています。 |
| 四国大学学際融合研究所の開設 | 社会の変革や要請に応える新たな研究推進体を創出するため、5つの附属研究所を「四国大学学際融合研究所」に統合しました。これまでの研究成果を基盤に、分野横断的な研究の深化・発展を図ることにより、本学における学術的調査研究をさらに推進します。 |
| 受託事業、受託研究・共同研究の推進 | 学外ニーズと大学シーズのマッチングを積極的に支援するため、本学教員の「対応可能なテーマ」及び貸出可能な施設・設備を「四国大学産学官連携シーズ集」として取りまとめ、平成30年度から本学ホームページへの掲載及び冊子にて公開しています。 |
| 科学研究費補助金の 申請率・採択率の向上 | 科研費補助金採択推進PTを中心に、科研費獲得に向けての学内研修会の開催や使用ルールに関する説明会の実施、獲得セミナー及び個別面談の実施など、科学研究費獲得に向けた様々な取組を実施しています。 |
| 四国大学研究ブランディングの確立 | 平成29年度、文部科学省に採択された「四国大学研究ブランディング事業」について、「SUBARU事業推進本部」を発足させ、藍の国際フォーラムの開催、藍の機能性成分の研究、藍墨の製造など「藍の研究拠点」としての様々な事業を推進しています。 |
| 図書館の複合検索機能の拡充 | 図書館ホームページ上に「学術雑誌論文」「紀要/学位論文」「図書」「貴重書」の項目から構成されるリポジトリ専用のサイトを新設しました。また、包括的なリポジトリ横断検索サイト「IRDB:学術機関リポジトリデータベース」を設けました。 |

3 学生生活と就職活動の支援・充実

| | |
|----------------------------|--|
| 学生満足度向上方策の検討・実施 | 平成30年度及び令和元年度のIR調査による本学学生満足度の評価・検証を行い、全学の学科・専攻毎に学生満足度向上に向けた対応策を取りまとめ、実施しています。 |
| 新しいチューター制度の導入 | 現行のチューター制度を検証のうえ、「チューターによる指導のてびき書」を一部改定し、平成30年度から新しいチューター制度を導入しました。 |
| 合理的配慮ガイドラインの策定 | 障がいのある学生に対する学上の配慮の提供に関するガイドラインを策定するとともに、作成した「合理的配慮ガイドブック」を全教職員に配付し、活用を図っています。 |
| アクセシビリティルームの開設 | 合理的配慮の提供に関する業務を行う施設として「アクセシビリティルーム」を開設するとともに、専任の障がい学生コーディネーターが常駐して合理的配慮に関する相談を受け付ける体制を整備しました。 |
| 学生支援GP制度の検証・見直し | 学生委員会において過去5年間の学生支援GPの取組実績と効果を検証し、更なる充実方策を検討・実施しました。継続プロジェクトにおいては、従来の活動内容に加え、新たな自治体や企業等との連携による活動が行われました。 |
| 学生の部活動参加率の向上 | 各部活動の活動状況や競技成績を積極的に情報発信するとともに、活動に対する奨励金制度の拡充や競技施設等の環境整備を実施し、学生の部活動参加率の向上と支援の充実を図っています。 |
| スポーツ・芸術分野特別入試 入学者の体系的支援 | スポーツ・芸術分野特別入試入学者の支援方策を検討し、検討結果に基づいた体系的な支援を行っています。 |
| 強化指定6競技に特化した ホームページの開設 | 本学が強化指定するスポーツ部6競技に特化したホームページを開設し、各部の競技成績や活動報告を掲載しています。 |
| STARプロジェクトの推進 | 本学のスポーツ選手の就職活動支援と卒業後の継続的な活動場所の確保、スポーツ経験者の雇用を通じた徳島県内のスポーツ及び地域の活性化を図る「STARプロジェクト(四国大学トップアスリート育成事業)」を全学体制で推進しています。 |
| 大学スポーツ振興の推進事業 | スポーツ庁の「大学スポーツアドミニストレーター配置事業」に採択されたことにより、学内に「四国大学スポーツ推進機構」を立ち上げ、スポーツ教育の推進や学生アスリートのキャリア形成支援、大学スポーツを通じた地域貢献・地域活性化に資する様々な取組を実施しました。 |
| 学生の経済的支援の充実 | 本学の奨学金制度について見直しを行い、令和元年度募集からグローバル分野特別奨学金の新設、芸術分野特別奨学金に吹奏楽を追加しました。また令和2年度募集からは芸術分野にメディア分野を追加し、芸術・メディア分野特別奨学金に拡充しました。 |
| キャリア教育の充実 | 中国・四国地域人材育成連携協議会への参加による広域インターンシップ、合宿授業、フォーラムを通じてキャリア教育の充実に努めました。また、本学と徳島大学、経済団体・県等の関係機関が協働で設置した「徳島県産官学人材育成連携会議」では、徳島県の「観光物産の活用」について学生による取組が進められています。 |
| 就職キャリア支援体制の 充実・強化 | 就職・キャリア支援推進委員会において、教員とキャリアセンター職員の連携による効果的な支援体制を構築しました。また、令和元年度から事務の効率化を高めるため、就職支援課とキャリア教育支援課を統合し、就職キャリア支援課を設置しました。 |

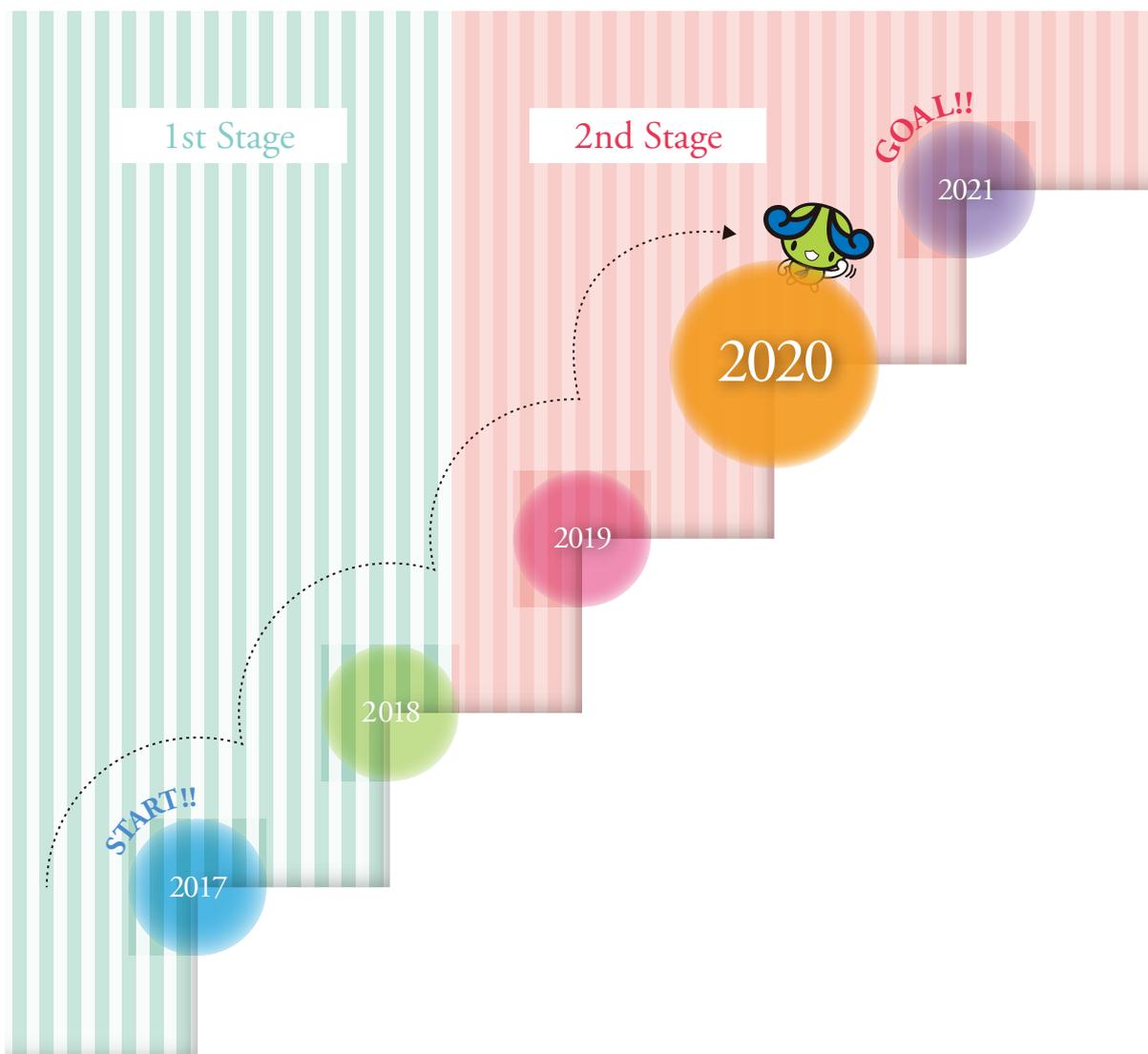
4 地域貢献活動とグローバル化の推進

| | |
|-----------|---|
| COC事業の推進 | 地域教育・連携センター及び県西部及び勝浦地区に設置したスーパーサテライトオフィスを活動拠点に、地域志向型教育の実施、地域に貢献できる人材の育成に取り組むとともに、教育の成果を積極的に地域社会へ還元し、地域の活性化につなげています。 |
| COC+事業の推進 | 県内の高等教育機関と県が連携して、雇用創出・若者定着のためのプログラムを実施しており、徳島で「新しく仕事を創りだすリーダー人材の育成」を目的に創業支援事業を行っています。 |

| | |
|-------------------------------|---|
| 地域貢献活動グランドデザインの策定 | これまで取り組んできたCOC事業、COC+事業の成果を踏まえ、今後の地域社会及び産業界等との連携の一層の強化を図りつつ、地域貢献活動に係る組織の在り方及び重点的に取り組む事項等について取りまとめ、「地域貢献活動グランドデザイン」を策定しました。 |
| 地域教育の体系化 | 平成29年度に全学共通科目として「地域未来探求」と「地域創生入門」を、教育課程の自由科目として「地域貢献・ボランティア活動ⅠⅡ」及び「地域企業等研究活動」を開設し、平成30年度には「消費者市民社会」を新設しました。また、地域教育ガイドブックを作成し、学生の地域教育への理解促進を図っています。 |
| 地域貢献・ボランティア活動等の評価・サポート | 地域貢献活動やボランティア活動の学内への更なる周知、SUDAchi CARD登録の促進や学外広報に取り組み、学生の活動時間において、令和元年度は大学における年間60時間達成者34人、内年間120時間達成者7人、短期大学部における年間30時間達成者5人、内年間60時間達成者1人となり、大きな成果を挙げています。 |
| 新あわ学の構築 | 本学教職員の執筆による「大学的徳島ガイド」を刊行するとともに、「新あわ学」をベースとしたご当地検定である第3回「あわ検定」では156名の方が受検するなど、「新あわ学」の構築に取り組んでいます。 |
| 新あわ学コースの開設 | 地域研究の成果や新あわ学で蓄積された識見を一般にわかりやすく紹介する講座として、徳島県との連携講座である、まなびーあ徳島「新あわ学コース」を開設しました。 |
| 美来創生みま学講座の開設 | 美馬市との連携により、美馬市での暮らしや地域について学び、美馬市の魅力を再発見する「美来創生みま学講座」を開設しました。令和元年度は13講座を開講し、約600名が受講しました。 |
| 新しい生涯学習プログラムの開発 | 生涯学習・公開講座に関するアンケート結果に基づき、社会のニーズに対応した新規講座を開発しました。また、「新生涯学習プログラム」を策定し、多様なニーズに応える教育プログラムを提供しています。 |
| 職業実践力育成プログラムの開設 | 社会人を対象に、文部科学省の職業実践力育成プログラム(BP)の認定を受けた、大学院経営情報学研究所における「税務・会計プログラム」及び文学部国際文化学科における「実践的小学校英語指導者育成プログラム」を開設し実施しています。 |
| 高大連携の推進 | 高校との教育連携協定の締結を推進し、令和元年度には協定校が26校となりました。また、高大連携協定に基づく「わくわくイングリッシュ・セミナー」には県内11校の高校生が参加しました。 |
| 新高大連携プランの策定 | 平成29年度に実施した高大連携に係る高校のニーズ調査を基に、高校側との組織的な取組体制の確立について検討したほか、県外高校との連携方策、芸術館の活用方法等の検討結果を取りまとめ、「新高大連携プラン」を策定しました。 |
| 認定こども園の教育・保育内容の充実 | 本園が大切にしてきた体力づくりの一環としてYMCA体育を4歳児にも広げるとともに、国際感覚を養えるよう3歳児から英語あそびを始めるなど、新教育要領を踏まえて教育・保育内容を充実させました。 |
| 大学と連携した認定こども園の教育・保育課題への取組 | 大学と認定こども園との連携カリキュラム等の協力体制の中で、子どもの成長を体系的に支える教育・保育内容の充実を図っています。また、子育て支援の充実方策として、平成30年度から一時預かり(一般型)を実施しています。 |
| DDP制度の実施に係る取組 | 中国湖南省湘潭大学商学院と四国大学経営情報学部との間におけるDDP制度の開始に向けて、本学学生の留学用カリキュラム及び受入れ留学生用カリキュラムの検討等必要な準備を行うとともに、平成30年度入学生から中国語特設講座など留学生用カリキュラムを実施するなど、各種支援を行っています。 |
| 外国人留学生の積極的受入れ | 短期大学部外国人留学生3年コースの受入れ体制の整備を行い、平成29年度からビジネス・コミュニケーション科と介護福祉専攻への正規留学生の受入れを開始しました。令和元年度からは短期大学部の全学科及び経営情報学部、令和2年度からは文学部に受入れを拡大しました。 |
| 外国人留学生に対する効果的な教育プログラムの提供 | 留学生基礎ゼミや日本語教育を中心とした外国人留学生科目の新設、ビジネス日本語プログラムの開設など、正規課程における外国人留学生の受入れについて、修学支援体制を整えました。 |
| 外国人留学生の修学・就職支援の充実 | 「外国人留学生就職支援実施要項」及び「就職活動スケジュール」に基づき、就職説明会、進路希望調査の実施、学外の各種セミナーへの参加など就職支援の充実を図り、令和元年度卒業生は就職希望19名全員の就職が決定しました。学科等においては、チューター、主任を中心に留学生の学習支援体制の充実に取り組んでいます。 |
| 「トビタテ! 留学JAPAN」等の支援 | 「トビタテ! 留学JAPAN」の令和元年度の地域人材コースの合格者は2名で、第1期から第11期の合格者数20名は私立大学派遣学生比率で全国2位となりました。 |
| 銘伝大学(台湾)における国際研修の実施 | 文学部国際文化学科では2年次の学生全員を対象に、姉妹大学である銘伝大学(台湾)における国際研修を実施しています。学生は、約2週間の英語研修及び文化研修を通して、実践的なコミュニケーション能力と国際的協調性を身に付けます。 |
| 海外留学を希望する学生への積極的支援と外国人留学生の受入れ | 令和元年度には、サギノーバレー州立大学(アメリカ合衆国)に長期留学5名、湘潭大学(中国)に長期留学3名、銘伝大学(台湾)に長期留学2名をそれぞれ派遣しました。また、サギノーバレー州立大学から9名、湘潭大学から8名、銘伝大学から1名を受入れました。 |
| 海外協定大学の拡充 | 海外の協定大学拡充に向けた調査・検討を行い、令和元年度にビシケク国立大学(キルギス)、湖南財政経済学院(中国)、サンシャインコースト大学(オーストラリア)及びリンカーン大学(ニュージーランド)の4校と新たに交流協定を締結しました。 |
| 国際交流支援体制の強化 | 国際交流関係業務の増大に対応するための体制強化と外国人留学生を積極的に支援するための人材養成を計画的に行っています。 |

5 大学運営組織の機能強化と経営の安定化

| | |
|-------------------|---|
| 教職協働での学生支援 | 教職協働作業部会を設置し、教職協働による学生の健全な修学並びに卒業及び免許・資格取得を支援する体制を整備しました。また、障がいのある学生に対しては「障害のある学生等に対する支援ガイドライン」に基づき、必要な支援を行うなど多様化・複雑化する学生支援に取り組んでいます。 |
| 情報システムの検証・改善 | 新情報システム検討PTを設置し、ペーパーレス化や各種情報コンテンツの共有・活用の促進に向けて、情報システムの改善策を検討・実施しています。 |
| 教職員の資質能力の向上 | 平成30年度に策定した新しい実施計画に基づき、新FD・SD研修会を開催し、教職員の資質能力の向上に取り組んでいます。 |
| 経営安定化に資する財源確保 | 外部資金獲得推進部会における検討結果を基に、国及び団体など学外の各種助成金や受託研究・受託事業収入など、外部資金の獲得による財源確保に努め、令和元年度は、スポーツ庁の「大学スポーツアドミニストレーター配置事業」、文化庁の「日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業」等に採択されました。 |
| 実効性のある予算管理システムの構築 | 健全な財政基盤の確立と安定化に向けて、新たな予算管理システムの構築に取り組んでいます。 |
| 大学BCPの策定 | 防災インフラの整備や大学BCP(業務継続計画)の策定等、防災機能の強化に取り組んでいます。 |



本学の使命(ミッション)は、変化する社会に対応・貢献できる人間力・自立力に富んだ人材を養成することにあります。そのためには、建学の精神である「全人的自立」に基づく教育及びその基盤となる研究を充実させ、本学の特色を明確にした教育指導、学生指導及び就職指導を着実に行之、有為な人材として社会に送り出すことが求められます。

「大学改革ビジョン2017」は「大学改革ビジョン2011」に引き続き、これらの使命を実現するため、2017年から5か年にわたり本学ならではの魅力や特色を最大限に発揮し、学園の全組織を挙げて取り組む計画として策定されました。

本学では、多様化する地域社会のニーズに的確に応え、学生にとって魅力ある大学実現のため、教職員が一丸となって改革の確かな歩みを進めてまいります。皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

学校法人四国大学 理事長 佐藤 一郎
四国大学・四国大学短期大学部 学長 松重 和美

大学改革ビジョン 2017

<http://www2.shikoku-u.ac.jp/jimu/s-kikaku/kaikaku2017/index.html>



人が集まる「人」をつくる、大学。



〒771-1192 徳島市応神町古川字戎子野123-1
TEL 088-665-1300 FAX 088-665-8037
<https://www.shikoku-u.ac.jp>

2020年6月発行